

支援から投資へ

～アスリートの積極雇用によるマイナー競技への投資～

応募区分：中学

チームID：SL600961

名古屋大学教育学部附属中学校 3年

メンバー：◎鬼頭直也

杉山貴紀

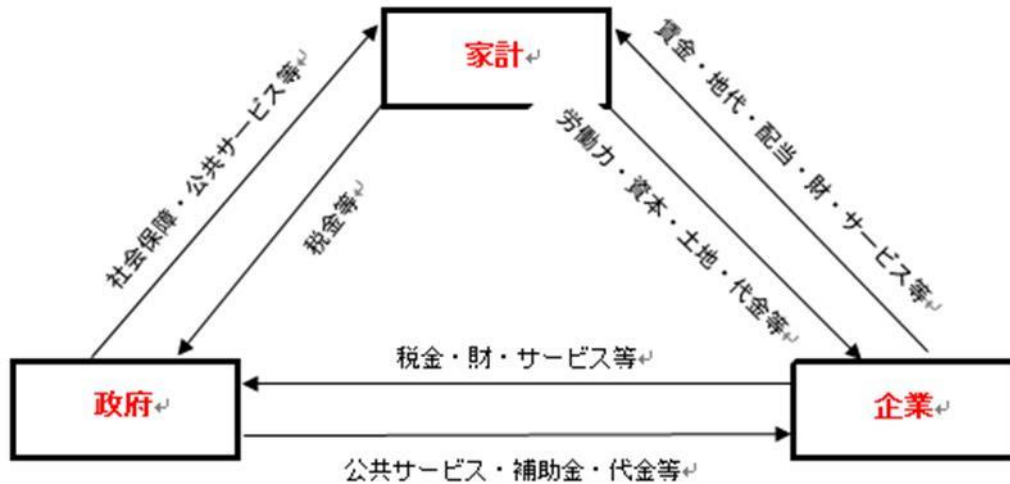
伊藤維胤

担当教諭：隅田久文

【基礎学習】

1 私たちが日常生活の中で消費している商品は、（財）と（サービス）の2種類に大別される。

2 下の図は、一国の経済を構成する経済主体間の主な関係を示している。空欄の3つの各主体は何か？



3 財やサービスの取引（交換）の手段として使われている貨幣（通貨）に関する次の各文のうち、誤っているものは？（b）

- a. 貨幣には、商品と交換する際に誰もが受取を拒否しないという共通の価値がある。
- b. 各国の通貨の価値は、現在でも一定量の金（きん）を尺度にして決められている。
- c. 通貨には、紙幣や硬貨からなる現金通貨と、当座預金や普通預金などの預金通貨の2種類がある。
- d. 現金通貨は、強制的な通用力が法的に認められていることから法定通貨（法貨）と呼ばれる。

4 現在の日本の年間出生数は約 100 万人で、第二次世界大戦直後と比べると約（4）割、30 年前との比較でも約（7）割まで低下している。

5 今後、少子高齢化が進むことによる日本の社会や経済への影響に関する次の各文のうち、誤っているものは？（c）

- a. 日本の人口は 2008 年をピークに減少傾向が続いている。
- b. 少子化や人口流出によって、将来、消滅する自治体が出てくる可能性もある。
- c. 少子高齢化による商品市場へのマイナスの影響は全ての分野に共通して現れる。
- d. 生産年齢人口の減少により、公的年金や医療保険の財政はますます厳しくなる。

6 グローバル化の進展に関する次の各文のうち、誤っているものは？（b）

- a. あらゆる分野で多くの企業が世界規模で事業展開を行っている。
- b. 先進国企業による発展途上国への海外投資では、途上国側のメリットは雇用の創出のみで限定的である。
- c. 国内にある生産拠点の海外移転により地域経済が衰退する「空洞化」の問題が懸念されている。
- d. グローバル化の進展は経済だけにとどまらず、文化の面でも大きなインパクトをもたらす。

7 近年は、利害が一致しやすい2つ以上の国や地域間で協定を締結する事例が増えている。具体的には、自由貿易を促進する（自由貿易協定(FTA)）と、「環太平洋経済連携協定(TPP)のようにより幅広い分野での協力を規定する（経済連携協定(EPA)）がある。

- 8 グローバルな対応が求められているグローバルな課題（グローバル・イシュー）として適切でないものは？（f）
- a. 地球環境問題 b. 人口問題 c. 感染症対策 d. 国際経済格差と貧困
e. 核廃絶 f. ワーク・ライフ・バランス g. すべて適切
- 9 GDP（国内総生産）に関する次の各文のうち、誤っているものは？（a）
- a. GDPとは、一定期間に国民全体として生産したモノやサービスの付加価値の合計額をさす。
b. GDPとは、一定期間に国内で生産されたモノやサービスの付加価値の合計額をさす。
c. GDPには名目GDPと実質GDPとがあり、その違いは物価の変動分を考慮するかどうかにある。
d. 近年は実質GDPが名目GDPを上回っており、これは日本がデフレ状態にあることを示している。
- 10 需要・供給の法則のポイントは、（価格）が消費者・生産者の行動に対し（インセンティブ）として機能することである。
- 11 直接金融の例として適切でないものは？（d）
- a. 社債 b. 公債 c. 株式 d. 銀行預金 e. 投資信託 f. すべて適切
- 12 株式を所有することで得られる金銭的な利益には、インカムゲインと呼ばれる（企業が利益を上げることによって、株主が配当金を受け取ることによって得る利益）とキャピタルゲインと呼ばれる（ある会社の株を安いときに買い、高いときに売ることによって得る利益）とがある。
- 13 株式投資などの際に考慮すべきリスクとして適切でないものは？（d）
- a. 価格変動 b. 金利変動 c. 為替変動 d. インフレ
e. 自然災害 f. すべて適切

■要 旨

2020年、東京でオリンピックが開催されることが決定した。そこで私たちは、日本の過去3大会のオリンピックでのメダル数について詳しく分析することで、メダルを取る力が弱いスポーツを見つけることができた。

これらのスポーツでは、競技施設の不足や認知度不足から、国内でまだまだ普及が進んでいないものもあることが分かった。私たちは、これらのメダルを取る力が弱いスポーツをマイナー競技と呼び、マイナー競技を支援する企業に注目し、スポーツ支援で社会に貢献しようとする会社のポートフォリオを作った。

今回私たちが注目したマイナー競技のアスリート雇用は、箱もの建設やメジャー競技のアスリート雇用などに比べるとコストを抑えられるので。比較的規模の小さい会社でも参入することができ、企業にはブランドイメージを高める広告効果や社内の士気を高める効果などがあることが分かった。

■目 次

要旨	4
目次	4

【STEP1】

基礎学習.. 2,3

【STEP2】

1. 暮らしや社会の変化と経済の関係	5
2. 投資テーマの決定	5
3. 一次スクリーニング	10
4. 二次スクリーニング	11
5. 最終スクリーニング	11
6. 投資家へのアピール	26
7. 日経ストックリーグを通じて学んだこと .	27
8. 投資家へのアピール	30

■ 学習内容

1. 暮らしや社会の変化と経済との関係

【1－1】日常生活や社会全体をめぐって注目される最近の動きや、私たちが直面している様々な社会的課題の中から、自分たちが特に重要と考える事項をいくつか選び、その理由と経済や企業活動への影響をまとめてみよう。

課題	選んだ理由	経済や企業活動への影響
東京オリンピック	オリンピックという観点から経済を見たことはあまりなかったので、独創的な研究ができると思ったから。	インフラ整備などの影響で主に建築業などに好影響が出る。 ホテルなどの観光関連の企業も伸びるのではないかな。
働き方改革	過労死などが社会的な問題となる中で、企業がこれまでの働き方を変える必要があると感じたから。	社員の過労死など働き方による問題は、企業の信頼を著しく損なう。そのため、企業が働き方改革を進められるかが今後のカギとなると思う。
高齢化の進行	マイナス面が語られる高齢化社会にプラス材料はないか検討する。	高齢化に対応したサービスや製品を開発することで、企業は生き残ることができると思う

2. 投資テーマの決定

【2－1】1－1でまとめたことなどを基にしながら、「今後成長が見込まれる分野」または「投資してみたい企業」について考え、それに関連する記事や情報をいくつか選び出してみよう。

分野・企業	日付	出所	内容（概要）	選んだ理由
建設業	9月10日	話し合い	オリンピックの競技場建設やそれに伴う再開発などで今後建設業界は伸びるのではないかな。	オリンピックに伴う建設需要は莫大な資金が動くと予想され、この分野への投資によってリターンが得られやすいと思ったから。
介護、医薬品事業	10月3日	日本経済新聞電子版	高齢化の進行により、介護需要が高まっている	高齢化に伴い、国内では医薬品需要の増加、介護需要の増加が期待される為今後この業界がさらに伸びるのではないかなと思ったから。
三菱電機	10月22日	三菱電機のHP	三菱電機が支援しているスポーツがとても多様だと	授業でスポーツがもたらす効果を学習し、企業がスポーツを支援することでどのような効果

【2-2】投資してみたいテーマを選び、その理由をまとめよう。

まず、テーマを選定する上で、まず私たちは、日本は今後高齢化が進む中で医療費増大や独居老人の増加などが懸念されると考えた。国力の低下というあまり肯定的ではない暗い未来像が想像された。では、私たちの住む日本を希望のある明るい社会にしていくにはどうすればよいか。この問題を解決するためにスポーツが持つ「人を健康にする力」や「人と人を結ぶ力」、「感動や希望を与える力」などが有効ではないかと考えた。そういった観点から、私たちは、いくつか出た投資テーマ案の中からオリンピックに関係するテーマで投資を進めることにした。

今後オリンピックが近づくにつれて競技施設の建設などで景気は一定程度浮揚するであろう。しかし、その先の変化、すなわち、オリンピックをただの一過性のイベントとして終わらせるのではなく、オリンピックを契機として社会がどう変われるかが大きなポイントだと考えた。私たちはオリンピックを通して社会はどう変わるべきかを考え、オリンピックという大きなテーマからさらに絞り込みをした。

日本がオリンピックでより多くのメダルを取って活躍できるようなスポーツ立国になっていけば、その裾野が広がると私たちは考えた。そこで、オリンピックでメダルを取る力が弱いマイナー競技に着目し、そうした競技を支援する企業を調べることにした。

【2-2-1】リオオリンピックから見る日本のメダル獲得力の弱さ

今年の夏に行われたリオデジャネイロオリンピックでは、日本は過去最多となる41個のメダルを獲得した。しかしそのメダルの内訳を見てみると、柔道、レスリング、水泳、体操の4種目が41個中31個もとっていることが分かった。

これは上位4種目の獲得メダル数の総メダル数に占める割合が、約75パーセントとなっている。また金メダルに限って見てみると、日本が獲得した12個のメダルの内この4種目で11個ものメダルを取っている。

これらのことからオリンピックにおける日本のメダルは、上位4種目に偏っていることが分かる。

このように特定の種目に偏ってメダルを獲っていると、海外の選手のレベルが上がる中で今後日本がメダル獲得数を伸ばすのが非常に困難になると考えられる。

具体的な事例として、日本のお家芸とされる柔道の事例を紹介したい。

現在、国際柔道連盟が公表している柔道の世界ランキングで世界1位の選手を見ると、日本人選手は男子が6階級ある中で90kg級のベイカー茉秋選手がただ一人ランクインしているだけでその他の階級はすべて韓国やフランスなどの外国人選手が取っている。女子では全階級でそれぞれ異なる国の外国人選手が占めており、柔道の国際化が進んでいることがわかる。

柔道では今後様々な国で選手の階級を絞った強化をしていくと考えられ、日本が全ての階級で総合的にメダルを獲得し続けることは非常に困難になることが予想される。

競争の激化という課題はどの競技にも共通することであり、日本がメダルを取り続けるためには何らかの変化が必要となってきている。

【2-2-2】問題を解決するために

現在日本が抱える問題は特定の種目に偏ったメダル獲得の仕方であり、その背景にはその他の競技が世界で戦えるレベルにまで育っていないことがあると考えられる。

これらの競技の中には、国内での競技人口が少なく、マイナー競技と呼ばれているものもある。

現在オリンピックでは29種目が採用されており、これらの競技すべてでメダルを獲ることができるようになればメダルを取る種目の多様化が進み、メダルを特定の種目に偏って取っていた今までの弱い日本のメダル競争力からより強固なメダル獲得力に代わることができる。

つまりこの問題を解決するためには、社会全体でマイナー競技を支援し、競技レベルを引き上げる必要性があるのだ。

【2-2-3】メダルを取る意義

スポーツをする上でメダルの獲得という結果にこだわる必要があるのかという意見もあるかもしれないが、文部科学省のスポーツ立国戦略ではスポーツ立国の目指す姿の中で、「国際競技大会などにおける日本人選手の活躍は、我々に日本人としての誇りと喜び、夢と感動を与え、国民の意識を高揚させ、社会全体の活力となるとともに、国際社会における我が国の存在感を高める」ということを言っている。

つまりオリンピックのメダル獲得力を高めるということは、日本の国力を高めることと等しいのである。英国の作家ジョージ・オーウェルは「スポーツの真剣勝負とは、銃撃なき戦争である」と言った。オリンピックという名の戦場において日本は、他国と国の威信をかけて戦っているのである。

だからこそオリンピックでのメダル獲得は非常に重要なものだと考える。

【2-2-4】マイナー競技育成のために企業はなぜ必要なのか？

私たちは日本のオリンピックでのメダル獲得力強化には、企業の力は欠かすことができないだろうと予想した。現在日本では、マイナー競技の多くのアスリートたちが現役引退後のライフプランを描きにくく、競技に専念することができない場合が多い。また、資金難などの理由でアスリートが競技を行えない状況や、選手生活をあきらめざるをえない状況がある。

こうした状況では、アスリートたちが競技に専念することができず、海外の選手との激しい競争に負けてしまうといった問題が出てくる。

これらの問題の有力な解決策として企業によるアスリートの積極的な雇用が考えられる。アスリートにとって雇用が確保されることで資金難による活動の制限等の問題が軽減されたり、現役引退後の生活に対する不安が払拭されるなどして選手たちがより競技に専念することができるようになり、オリンピックなどのパフォーマンスも向上することが考えられる。

【2-2-5】アスリート雇用のメリットとは？

アスリートを雇用することは企業にとってもメリットがある。2020年の東京オリンピックに向けて、日本では今後さらにスポーツブームが加速することが考えられる。

そうした中で自社のアスリートがオリンピックでメダルを獲得することがあれば、国民はその企業に注目するため企業の宣伝になることが予想される。

また、スポーツ支援をすることで企業の認知度が上がれば自社のサービスや商品が売れ、業績の拡大にもつながると考えられる。

他にも企業がビジネスをする上で顧客からの信頼は何よりも大切なものであり、スポーツ支援を通じた社会貢献活動は、信頼獲得に大きな役割を果たすだろう。

文部科学省はスポーツ立国を目指す具体的な方策として「オリンピックメダリストの輩出等に貢献した企業等の団体も表彰する」としており、企業によるスポーツ支援は今後更なる追い風が期待される。

【2-2-6】マイナー競技とは何か

ここで、マイナー競技とは何かを定義する

マイナー競技とは、以下の条件を満たすものである

1. 過去3年間の夏季と冬季の両オリンピックで、日本が獲得したメダルについて、金メダル5点、銀メダル3点、銅メダル1点として計算し、これらの合計点が低いもの
2. 1のうち、リーグなどがなく、国民にあまり知られていないことが明白なもの
3. 障害者スポーツの競技全般

マイナー競技の選定：冬季オリンピック編

3大会で行われていた全ての競技を以下に示す

スキー アルペン	カーリング	アイスホッケー
クロスカントリー	バイアスロン	ボブスレー
ジャンプ	スノーボード	ボブスレー スケルトン
フリースタイル	スケート スピードスケート	リュージュ
ノルディック複合	フィギュアスケート	スケート ショートトラック

日本が獲得したメダルの内訳と、点数化

	ソチオリンピック	バンクーバーオリンピック	トリノオリンピック	合計
スピードスケート		銀 銀 銅		7点
フィギュアスケート	金	銀 銅	銀	12点
スキー・ジャンプ	銀 銅			4点
ノルディック複合	銀			3点
スノーボード	銀 銀 銅			7点
フリースタイル	銅			1点

マイナー競技として選定したもの（冬季オリンピック編）

・スキー アルペン	・スケートショートトラッ	・リュージュ
・クロスカントリー	・アイスホッケー	・カーリング
・ボブスレー スケルトン	・ボブスレー	・バイアスロン

マイナー競技の選定：夏季オリンピック編

	ロンドン	北京	リオデジャネイロ	合計
ボクシング	金 銅			6 点
体操	金 銀 銀	銀 銀	金 金 銅	2 8 点
レスリング	金 金 金 金 銅 銅	金 金 銀 銀 銅 銅	金 金 金 金 銀 銀 銀	6 9 点
柔道	金 銀 銀 銀 銅 銅 銅	金 金 金 金 銀 銅 銅	金 金 金 銀 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅	6 5 点
水泳	銀 銀 銀 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅 銅	金 金 銅 銅 銅 銅	金 金 銀 銀 銅 銅 銅 銅	5 1 点
サッカー	銀			3 点
ウエイトリフティング	銀		銅	4 点
フェンシング	銀	銀		6 点
バドミントン	銀		金 銅	9 点
アーチェリー	銀 銅			4 点
陸上	銅	銅	金 銅	8 点
バレーボール	銅			1 点
自転車		銅		1 点
カヌー			銅	1 点
テニス			銅	1 点
卓球			銀	3 点

マイナー競技として選定したもの（夏季オリンピック編）

・ホッケー	・テニス
・セーリング	・バイアスロン
・馬術	・アルペンスキー
・射撃	・クロスカントリー
・近代五種	・スピードスケート
・トライアスロン	・アイスホッケー
・テコンドー	・ボブスレー
・カヌー	・スケルトン
・ボート	・リュージュ
・自転車	・カーリング

3. 一次スクリーニング

【3-1】一次スクリーニングをしよう

スポーツに関係のある企業を、書籍、過去の新聞記事、インターネットを使って調べた。

また、私たちが決めたマイナー競技を多く支援している「スポーツ振興基金」に協賛している企業 57 社を含めた、計 117 社をピックアップした。

さらに、二次スクリーニングの参考にするため、以下に挙げる 5 つについてそれぞれ調べた。

- i. 業種、事業内容
- ii. スポーツ関係の事業をしているか（大会の協賛など、種類は問わない）
- iii. 会社全体の女性の雇用率
- iv. 障害者の雇用率
- v. アスリート雇用をしているか

最終スクリーニングの項目で詳しく説明するが、iii と iv を評価基準に加えた理由としては、スポーツは社会全体で楽しむものであり多様な人材を雇用しようとする企業姿勢がスポーツ支援の質の向上につながっていくと考えられるため、多様な人材を雇用しているかどうかということをスクリーニング基準に入れたかったからである。

以下の表は第一次スクリーニングでピックアップされた 117 社である。

・日本製粉	・パナソニック	・三菱東京UFJ
・ホンダ	・楽天	・村田製作所
・朝日新聞	・エディオン	・中村ブレイズ
・毎日新聞	・福岡地所株式会社	・日本電機NEC
・東洋水産	・DHC	・三菱商事
・ニチレイ	・YONEX	・大正製薬
・カゴメ	・ゼビオグループ	・東芝
・ハウス食品	・マズデー食品	・SMBC
・味の素	・日清食品	・セコム
・イオイミルズ	・あいおいニッセイ	・太陽生命
・ギョーマン	・日本航空	・オーエックスエンジニアリング
・フジッコ	・オムロン	・コカ・コーラ
・アサヒ生命	・ゴールドウイン	・シチズン
・朝日生命	・清水建設	・ロバートウォルターズ
・アサヒグループhd	・中外製薬	・セイナ
・大林組	・住友生命保険	・青山商事
・安藤間(株)	・西武鉄道	・明治
・オリックス銀行	・ソニー	・ギルバート
・鹿島	・損害担保ジャパン	・HIG
・熊谷組	・大成建設	・ギヤパン
・鴻池組	・第一生命	・グボタ
・サッポロビール	・大同生命	・Jスポーツ
・サントリースhd	・竹中工務店	・大和証券
・ジフアルタ生命	・中央三井信託銀行	・明治安田生命保険
・住友信託銀行	・りそな銀行	・T&Dフィナンシャルグル
・アイリスオーヤマ	・東京海上日動	・JT
・LIXIL	・戸田建設	・ガンゼ
・ボラス株式会社	・凸版印刷	・ダイドーリミテッド
・NTTドコモ	・(株)フジタ	・帝人
・日立	・西松建設	・東レ
・東京ガスライフバル	・日本生命	・キューピー
・富士通株式会社	・フジテレビ	・日清オイリオグループ
・日産自動車	・マズミュージアル	・第一三共

・三栄建設設計	・マニユライフ生命	・アシックス
・株式会社はくばく	・マルニファニシング	・ヒマラヤ
・亀田製菓	・ミズノ	・ソフトバンク
・ヤマハ発動機	・三井住友銀行	・オリックス
・三井生命保険	・トヨタ自動車株式会社	・日本ハム
・ロッテ	・読売新聞	・ディーエヌエー

4. 二次スクリーニング

【4-1】二次スクリーニングをしよう

二次スクリーニングでは、一次スクリーニングで出た企業の中から、【2-2-6】で紹介したマイナー競技を応援する企業のみを選定した。

また、二次スクリーニングをする中で、マイナー競技を支援していると分かった企業を新たに加えた。
以上の結果、次の41社を二次スクリーニング結果とした。

NEC	サントリー	味の素
三菱商事	大和証券	サッポロビール
三井住友フィナンシャルグループ	帝人	トヨタ自動車
コカ・コーラウエスト	東レ	T&D保険グループ
シチズン	中部電力	アット・ホーム・グループ
リクシル	アルゴグラフィックス	デサント
アサヒグループHD	中国塗料	北野建設
キヤノン	ベネッセ	三菱電機
大林組	オムロン	ゴールドウィン
日本航空	中央三井信託銀行	中外製薬
パナソニック	東京海上日動	大同生命
エディオン	凸版印刷	フジタ
YONEX	ミズノ	マスミューチュアル
ゼビオグループ	あいおいニッセイ	

5. 最終スクリーニング

【5-1】最終スクリーニングをしよう～評価基準決定～

第二スクリーニングで選定された会社について、様々な項目から客観的かつ多角的に分析し、最終的に我々が投資する会社を19社選定した。

最終スクリーニングでは、企業を人財、財務、スポーツ、CSR、将来性の5つの観点から分析、考察した。

各社のHP等を参考にして調査を行ったが、わからないもの、情報が定かでないものはすべて0点とみなし、採点を行った。

人材

評価基準に加えた理由・・・スポーツは社会全体で楽しむものであり、多様な人材を受け入れる企業風土がないと我々の望むスポーツ支援はできないのではないかと考えたからである。

採点方法・・・企業のHPや、内閣府男女共同参画局「女性の活躍見える化サイト」を参考に評価した。

また、ここでは、テーマ評価の各指標の紹介をしていく。

左上が項目名、右上が選出理由、左下が点数の基準、右下が点数となっている。

1 従業員の女性比率	多様なスポーツ支援には女性の視点が欠かせないから
40%以上	3点
20%以上40%未満	2点
20%未満	1点

2. 管理職の女性比率	管理職に女性がいて、会社内の人材評価の公平性が分かると思ったから
7%以上	3点
5%以上7%未満	2点
3%以上5%未満	1点
3%未満	0点

3. 女性支援制度の取り組み	その会社に女性を支援する仕組みがあるかどうかで女性が活躍しやすくなるだろうと考えたから
制度・取り組みがしっかりしている	3点
制度・取り組みがある	1点
ない	0点

4. なでしこ銘柄かどうか	女性が活躍できるか、客観的に評価できる一つの方法だと思うから
なでしこ銘柄(※)である	2点
なでしこ銘柄(※)でない	0点

※なでしこ銘柄・・・経済産業省が東京証券取引所と共同で選定・発表している女性活躍・推進に優れた上場企業

5. 障害者雇用について	多様な人材の雇用によって豊かな発想が生まれ、スポーツ支援の質も向上すると思うから。
インターネット上で数字を公開している	1点
していない	0点

6. 障害者雇用率	マイナー競技には、パラスポーツも含まれており障がい者雇用は競技を支援する上で欠かせないと考えたから。
2.5%以上	3点
2%以上2.5%未満	2点
1.8%以上2.5%未満	1点
法定雇用率を下回っている	-2点

7. アスリート雇用	アスリートを雇用することは、マイナー競技の振興や強化にとって最も欠かせないものだと考えたから。
2人以上している	2点
1人している	1点
していない	0点

スポーツ

評価基準に加えた理由・・・この研究のテーマであり、スポーツをどれぐらい積極的に支援しているかを評価することはとても重要なことだと考えたから。

採点方法・・・企業のHPを評価した。

1. 本業との関係性	本来その企業がスポーツを応援する立場にあるのかも採点したかったから
本業がスポーツと密接に関係している	3点
本業とスポーツは少し関係がある	2点
本業とスポーツには全く関係がない	1点
2. 雇用したアスリートの大会での成績	大会での成績を判断することで、雇用したアスリートの強化に企業がどれだけ真剣に取り組んでいるかわかると思ったから。
世界大会の入賞など特筆すべきものがある	3点
国内大会での入賞などがある	2点
入賞が見込まれる	1点
大会成績ではよいところがない	0点
3. スポーツ大会協賛	スポーツ大会によってスポーツの振興や、その競技のレベルアップ、人々の認知度向上につながるから。
3つ以上している	3点
2つしている	2点
1つしている	1点
していない	0点
4. 子供達のスポーツ大会協賛	子供達の大会協賛による次世代アスリートの支援は、今後のスポーツ界を担う人材育成と同義であるから
2つ以上している	2点
1つしている	1点
していない	0点
5. 障害スポーツの支援	障害アスリートの大会を支援することでパラスポーツの強化につながるから
2種目以上支援している	3点
1種目している	2点
していない	0点
6. ウィンタースポーツの支援	ウィンタースポーツを支援する企業は少ないので、支援している企業をしっかりと評価したいと思ったから
している	2点
していない	1点
7. スポーツ支援の理念	スポーツ支援の理念は、支援の根幹となるものでその理念が共感できるかどうかはとても大切だから。
理念が適切で、かつ共感できる	2点
理念はあるが、評価に値しない	1点
ない	0点

支援から投資へ ～アスリートの積極雇用によるマイナー競技への投資～

8.実業団チーム数	実業団チームを多く持つ企業はスポーツ支援に熱心に取り組んでいる企業であると思うから。
3つ以上ある	3点
2つある	2点
1つある	1点
ない	0点

9. 長い間スポーツを支援している	長い間スポーツ支援に取り組んでいる、熱心な企業の想いを評価したいと思ったから
している	2点
していない	1点

※各社のHP等を参考に調べた。

10. スポーツ関係のHPがわかりやすいか	HPがわかりやすいと、多くの人がそのスポーツやその企業に関心を持つと思うから。
分かりやすいと感じる	2点
分かりにくいと感じる	1点

11.マイナー競技の支援	マイナー競技の支援に積極的に取り組む企業は少なく積極的に取り組む企業を高く評価したいと思ったから
3種目以上している	5点
2種目している	3点
1種目している	1点

12.広報系の活動	マイナー競技の強化をするうえで、競技の認知度の低さの改善が重要であると考えたから
スポーツ選手等がCM出演など広報活動を行っている	3点
広報活動で評価すべきものは特にない	0点

13 スポーツ系の施設	地域に密着した施設を作り、人々に興味・関心を持ってもらう活動も重要だと思ったから
あり、開放している	2点
ある	1点
ない	0点

財務

評価基準に加えた理由・・・スポーツ支援は長期にわたり継続的に行わないと結果を出すことが難しい。そのため、継続的に支援を行うための経営体力が高い企業を選ぶため。またポートフォリオを組むうえで財務面での安定は欠かせないものだから。

採点方法・・・企業の財務諸表を評価した。

1. PER（株価収益率）；株価の割安性	会社の収益力を示す指標でもあり、財務における採点で有能だと思ったから
20より大きい	0点
10より大きく20以下	1点
10以下	2点

2. ROE(自己資本利益率)；株主のためにどれだけ利益を上げたか	利益を効率的に回収できるか、判断できる指標の一つだから。
15%以上	5点
10%以上15%未満	4点
7%以上10%未満	3点
5%以上7%未満	2点
5%未満	1点

支援から投資へ ～アスリートの積極雇用によるマイナー競技への投資～

3. PBR（株価純資産率）； 純資産から見た株価の割安度	会社の安定性を示す指標でもあり、財務における採点で有能だと考えたから
2より大きい	0点
1より大きく2以下	1点
1以下	2点
4. ROA（総資産利益率）； 与えられた資産でいかに効率よく儲けを出しているか	企業がいかに効率的に利益を出せるかどうかで、その企業が優秀かどうかはかれると思ったから。
5%以上	3点
3.5%以上5%未満	2点
2%以上3.5%未満	1点
2%未満	0点
5. 株主優待；一定の株を持った株主に対して優待する	企業に投資するうえで魅力の一つといえるから。また優待があることで個人投資家を増やし、株価を安定させられるから
あり	2点
なし	0点
決算が赤字であるにもかかわらず優待	－3点
6. 企業理念	企業の活動方針を示す大切なものだから
しっかりしていてかつ独自性がある	2点
独自性がなくぶれている	1点
7. 自己資本比率	返済不要の資本額を見ることができ、その企業の安定性を計ることができるから。
80%以上	5点
70%以上80%未満	4点
60%以上70%未満	3点
50%以上60%未満	2点
40%以上50%未満	1点
40%未満	0点
8. 配当利回り	配当金が多いか少ないかはその企業の株の魅力や計る指標ともいえるから
2.5%以上	4点
2%以上2.5%未満	3点
1.5%以上2%未満	2点
1%以上1.5%未満	1点
1%未満	0点

将来性

評価基準に加えた理由・・・その会社に投資しても安全かどうか見極める基準を作りたいかったから。

採点方法・・・インターネットで情報収集&採点。

1. 業績の見通し	HP等を見て自分たちで判断した
スポーツ事業でも活躍が見込まれる	3点
全体的に良い	2点
普通	1点
不安がある	0点

支援から投資へ ～アスリートの積極雇用によるマイナー競技への投資～

2. 海外進出	海外に進出するほどの余裕があるかわかるから
している、かつ海外で利益を上げている	2 点
している	1 点
していない	0 点

3. その企業のシェア（売上高ランキング）	業界内でどれくらいの力があるのかわかるから
1～5 位	4 点
6～10 位	2 点
11 位以下	0 点

4. 直近 3 年間の不祥事	不祥事がない企業は、スポーツ支援を行う上で大切な、社会からの信頼があると思ったから。
無し	2 点
直近 3 年間ではないがそれ以前に重大な不祥事がある、	0 点
ある	個数×－2 点

C S R 活動

採点基準に加えた理由・・・地域貢献活動などを積極的に行うことで地域からも信頼され、企業も成長を続けていけるから。

評価方法・・・インターネット、東洋経済の C S R 企業総覧などで調べた。

1. ホームページ（C S R 全体）のわかりやすさ	C S R にしっかりと取り組んでいる企業は企業が持つ社会的責任を果たして言えるから
C S R 関係のレポートを公開するなど積極的な姿勢が見える	2 点
分かりにくい	0 点

2. ユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインを開発しているかどうかで企業がどれだけ社会に配慮しているかが分かるから
ユニバーサルデザイン仕様の商品が複数ある	2 点
ユニバーサルデザイン仕様の商品が 1 つある	1 点
ない	0 点

3. 子供を対象とした社会活動	未来の社会を担う子供たちを育てることは企業の役割のひとつであると考えているから
定期的に主催	3 点
不定期または頻度がわからない	2 点
協賛（資金援助など）のみ	1 点
ない	0 点

4. 食育活動	スポーツをする上で健康な体であることは大切である。食事はそんな健康な体を作るうえで必要不可欠であるから。
定期的に主催	3 点
不定期または頻度がわからない	2 点
協賛（資金援助など）のみ	1 点
ない	0 点

5. 障害者を対象とした福祉活動	障がい者に対する支援をすることで、スポーツを楽しむ土台となる多様な社会の実現ができるから
定期的に主催	3 点
不定期または頻度がわからない	2 点
協賛（資金援助など）のみ	1 点
ない	0 点

【5-2】ポートフォリオ

[ポートフォリオ（ファンド）名]

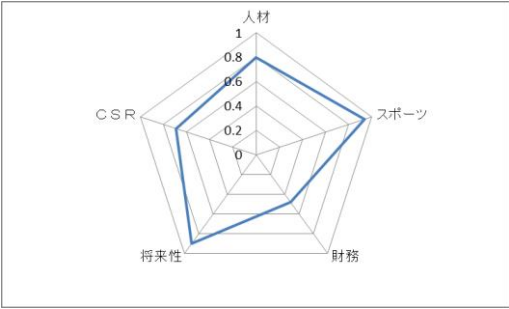
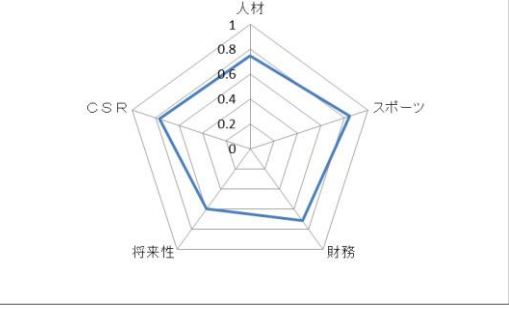
輝く未来へ、希望のスポーツファンド

最終三スクリーニングにおける企業の得点を参考に、購入する株式の数を決めた。

$$A \text{ 社が購入する株式の金額} = \frac{A \text{ 社の得点}}{\text{すべての会社の得点の総和}} \times 100 \times 500 \text{ 万}$$

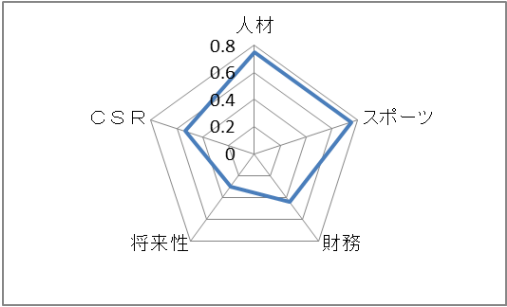
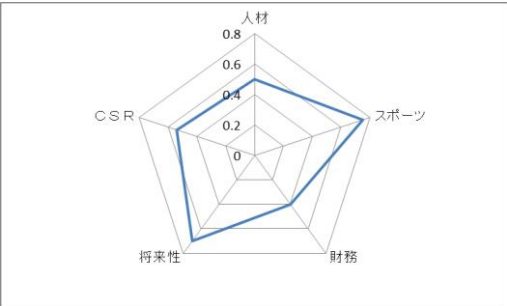
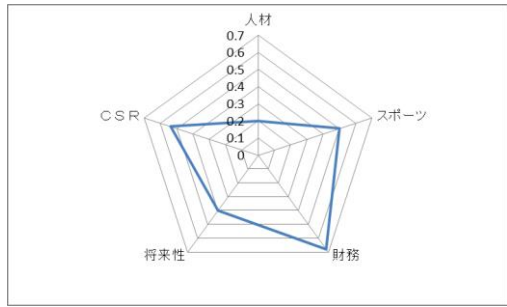
ポートフォリオでの各企業の構成比率は基本的には上記の計算式を基本とした。しかし、私たちはより安定したポートフォリオを追及しなかったため、議論を重ね最終的な構成を以下の表のようにした。

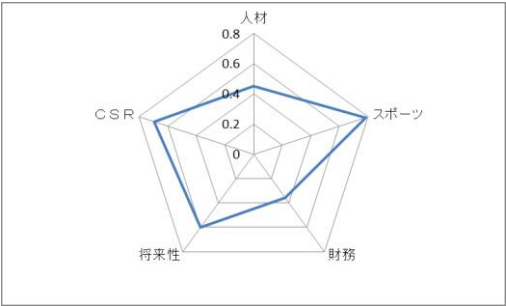
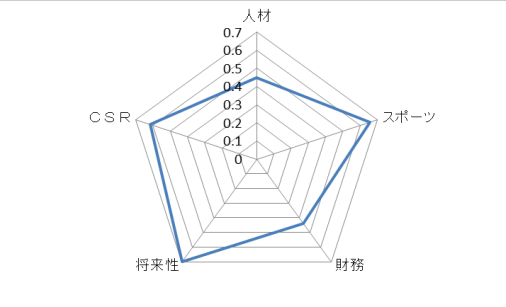
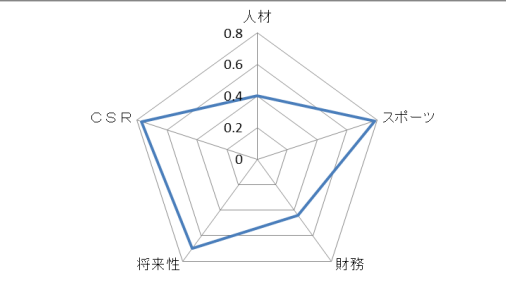
証券コード	企業(銘柄)名	購入金額(円)	構成比(%)
8058	三菱商事	296.580	5.93
9201	日本航空	297.880	5.95
7762	シチズン時計	285.891	5.71
8316	三井住友フィナンシャルグループ	2607.72	5.21
6645	オムロン	261.640	5.23
8022	美津濃	256.316	5.12
8111	ゴールドウィン	252.960	5.05
6503	三菱電機	247.511	4.95
9502	中部電力	208.715	4.17
5938	リクシル	236.592	4.73
4519	中外製薬	225.050	4.50
6701	日本電気	229.758	4.59
2579	コカ・コーラウエスト株式会社	210.600	4.21
6752	パナソニック	221.160	4.42
7906	YONEX	219.200	4.38
8281	ゼビオホールディングス	200.640	4.01
2730	エディオン	203.315	4.06
2802	味の素	190.275	3.80
2587	サントリー	186.010	3.72
	現金	460.652	9.21

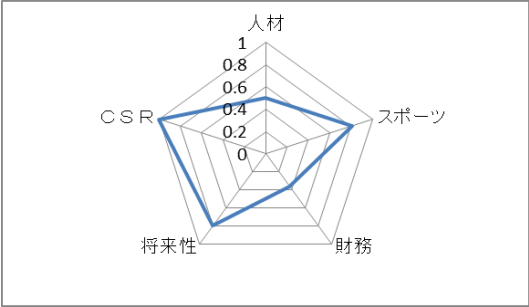
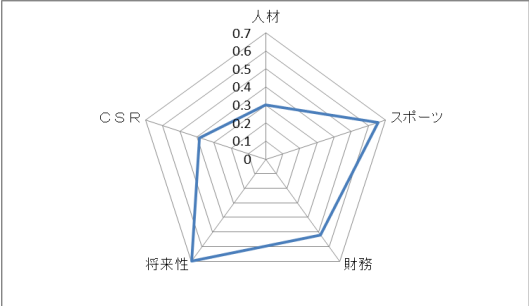
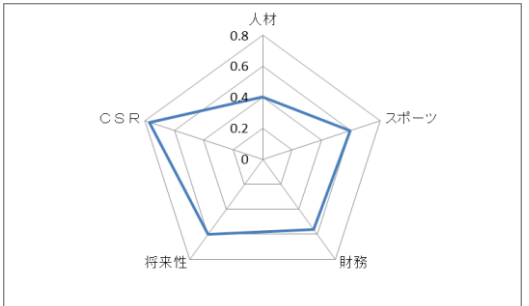
8058	三菱商事	76点/100点
		スポーツ支援、規模の大きさに圧倒 三菱グループの大手総合商社でいわゆる5大企業の一つである。32点満点中30点と、スポーツが突出して素晴らしい評価を得ている。例えば、障害者スポーツの養成講座を定期的に開いたりして支援している。障害者への福祉も大変手厚い。その他の項目も大変優秀な成績を収めており、素晴らしい企業といえよう。強いて問題点を指摘するならば、財務の点数が低く、安定性に欠けるといったことだろうか
項目ごとの得点	人材：16点/20	
スポ：30点/32	財務：12点/25	
将来：9点/10点	CSR：9点/13点	
9201	日本航空	76点/100点
		多数の競技種目を支援 まず、この会社は、近代五種、ライフル、セーリングなどと我々が定めたマイナー競技を何種目も応援している。もちろん、マイナー競技以外も応援しており、競技数は19にも上る。スポーツと本業に関連性がないにもかかわらずこれだけの支援をこなしているのは素晴らしい。CSR活動も多角的だ。財務の点数もよく、安定性が期待できそうだ。不祥事では、飛行機の離陸トラブルなどがあった。
項目ごとの得点	人材：15点/20	
スポ：27点/32	財務：18点/25	
将来：6点/10点	CSR：10点/13点	

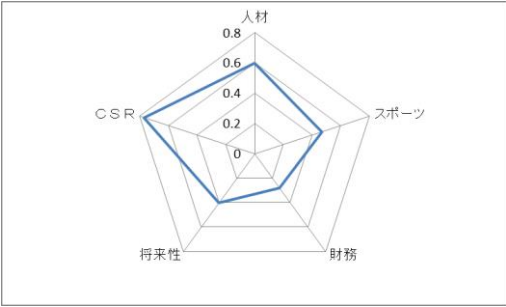
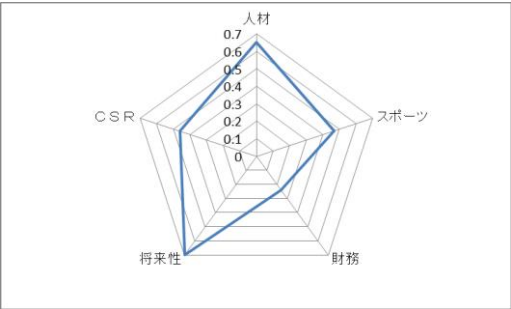
7762	シチズン時計	73点/100点
精密機械からスポーツへ シチズンは、精密・電子機器の製造会社。スポーツの成績は32点満点中27点と高得点をマークしている。また、将来性についても1点しか落としておらず、有望な会社である。人材、CSRについても大きな失点などは見られない。ただ、財務が低く、会社の安定性には問題がある。とはいえ、下位の会社と比べるとここまでバランスの取れている企業はまれで、有能であるといえる。		
項目ごとの得点	人材：15点/20点	
スポ：27点/32点	財務：13点/25点	
将来：9点/10点	CSR：9点/13点	
8316	三井住友フィナンシャルグループ	67点/100点
多様な人材を雇用する優良企業 三井住友フィナンシャルグループは三井住友銀行などを子会社に持つ金融持ち株会社である。まず、人材の点が20点満点中18点と、高めである。CSRもまずまずの成績をマークしているが、将来性、財務が低く企業の安定性には疑問を感じる。また、不祥事については子会社支店長が詐欺で逮捕されるなど、問題点がある。スポーツについては東京オリ・パラリンピックのゴールドパートナーに就任している。また、ラグビーチーム「サンウルブズ」と契約を結んでいる。		
項目ごとの得点	人材：18点/20点	
スポ：23点/32点	財務：12点/25点	
将来：6点/10点	CSR：8点/13点	
6645	オムロン	67点/100点
最高の安定性、スポーツ支援と両立 オムロンは、日本の大手電機メーカーである。この会社は、将来性において抜群の安定性を誇る。なんと、10点満点をマークしている。ほかの項目は半分を超える成績である。人材と財務が少し弱い。不祥事としては人物画像の無断使用などが挙げられた。スポーツ支援としては、社のハンドボールチームが総合優勝するなど素晴らしい成績を収めている。脳・心血管疾患におけるヘルスケアもCSR活動として行っており、配点も低くはない。		
項目ごとの得点	人材：11点/20点	
スポ：21点/32点	財務：16点/25点	
将来：10点/10点	CSR：9点/13点	

8022	美津濃	65点/100点
		イベントを多数開催し、次世代を育成 スポーツ支援では、次世代の子供の体力・運動能力向上を目指し、イベントを行っている。2013年からイベント開催数を順調に伸ばし、今年は教室開催数が337回となった。また、アスリートを中心に行う「ミズノビクトリークリニック」を各地で開催、スポーツ振興に向けた活動をしている。CSR活動も魅力的で、得点は高い。不祥事では、統一球変更隠蔽問題などが挙げられた。
項目ごとの得点	人材：10点/20	
スポ：26点/32点	財務：11点/25	
将来：7点/10点	CSR：11点/13点	
8111	ゴールドウイン	65点/100点
		健全なスポーツ用品会社 ゴールドウインは、スポーツ用品の製造・販売を行う会社。スポーツでは、32点満点中25点という高得点を挙げている。支援の例として、次世代のウィンタースポーツ支援などがある。将来性では9点を取っている。数ある企業の中で不祥事が調べても見当たらず、健全性で言えばかなり高い位置にいる会社だといえよう。CSR活動にも積極的に取り組んでおり、有望な会社だ。人材の項目が低いのが、玉に瑕といったところだろうか。
項目ごとの得点	人材：6点/20点	
スポ：25点/32点	財務：15点/25	
将来：9点/10点	CSR：10点/13点	
6503	三菱電機	63点/100点
		スポーツ一択！熱血企業 三菱電機は、日本の総合電機メーカーである。なんと、スポーツの分野で32点満点という最高成績をたたき出している。総合得点トップの三菱商事を超える得点であり、大変すばらしい。CSRもまずまずの得点だが、将来性は1点しか取れておらず、安定性は期待できない。不祥事として国に対する過大請求、社員による架空発注、労災問題などが挙げられ、会社の健全性にははっきり言って問題があるのではないかと。
項目ごとの得点	人材：10点/20	
スポ：32点/32点	財務：14点/25	
将来：1点/10点	CSR：8点/13点	

5938	LIXILグループ	60点/100点
		熱心な障害スポーツ支援 リクシルは、建築材料・住宅機器設備の大手企業。スポーツの配点が高くなっているのは、障害者アスリートを雇用しており、その選手が世界大会で9位という好成績を残しているためでもあるのだろう。財務・人材・CSRの項目でも大きく失点することなく得点を稼いでいる。不祥事として主力商品のリコールや社員による暴行事件などが挙げられた。将来性の項目が低いのは、このためである。
項目ごとの得点	人材：15点/20点	
スポ：24点/32点	財務：11点/25点	
将来：3点/10点	CSR：7点/13点	
9502	中部電力	58点/100点
		マイナー競技応援、活躍を期待 中部電力はスポーツの得点が高い。マイナー競技の応援としてはカーリング部やボート部があり、新たな選手の輩出が期待される。ほかにもラグビー部などもあり、スポーツ応援には熱心な企業といえそう。また文科系の物もあり、点数こそ低いものの、CSR活動には余念がない。もう少し多様な人材の雇用に力を入れれば、上位のランクインも狙えるだろう。原発に関する不祥事があり、会社の健全性については辛抱強く見守っていく必要があるそう。
項目ごとの得点	人材：10点/20点	
スポ：24点/32点	財務：10点/25点	
将来：7点/10点	CSR：7点/13点	
4519	中外製薬	58点/100点
		障害スポーツ応援 中外製薬は、日本の大手製薬会社である。人材の項目が低くなっており、女性の社会進出が進んでいない企業であるといえる。また、アスリート雇用もしていない。スポーツ、CSR、財務では大きな失点もなく得点している。不祥事として劇薬の紛失などがあるが数は少なく、比較的安全な企業といえるだろう。障害スポーツの応援をしている。具体的には啓発資料作成、選手のトークショー、写真展などを開催している。
項目ごとの得点	人材：4点/20点	
スポ：16点/32点	財務：17点/25点	
将来：4点/10点	CSR：7点/13点	

6701	日本電気	58点/100点
		
車いすテニス支援の古株 NECはパソコンやタブレットなどを販売する会社である。財務や人材の点では芳しくないが、車いすテニスの支援をなんと20年前から続けており、評価に値する。また女子バレーや男子ラグビーなどのスポーツも支援の対象としている。さらに、中学生を対象にしたスポーツ支援も行っており、CSR活動の得点も悪くない。不祥事について探したが、特筆すべきことは見当たらず、健全な会社であるといえる。		
項目ごとの得点	人材：9点/20点	
スポ：25点/32点	財務：9点/25点	
将来：6点/10点	CSR：9点/13点	
2579	コカ・コーラウエスト	56点/100点
		
ウィンタースポーツを応援 この会社は清涼飲料水などを製造・販売する会社である。全体的にバランスが取れており、大きな失点は見られない。スポーツ分野ではホッケーチームがあり、ウィンタースポーツを支援しているため、スポーツの得点は悪くない。CSR活動にも積極的である。不祥事は可能な限り調べたが、とくには見当たらなかった。スポーツ支援などの規模は小さいものの、バランスのとれた健全な会社であるといえるだろう。		
項目ごとの得点	人材：9点/20点	
スポ：21点/32点	財務：11点/25点	
将来：7点/10点	CSR：8点/13点	
6752	パナソニック	55点/100点
		
多彩な支援を展開、期待高まる パナソニックは、電気機器の製造・販売を行う企業である。スポーツの項目の点数がいい理由として、スポーツ教室の開催があるだろう。ほかにもパラリンピック（障害スポーツ）の応援など、多彩な支援を展開している。さらにはバレーボールチーム「パナソニックパンサーズ」をはじめとした野球、ラグビー、陸上競技などのチームを擁している。ただし財務の項目は低めで、(財務の中の)得点が0点の項目も3つほど見受けられたため、企業の安全性という面では微妙なところもある。		
項目ごとの得点	人材：8点/20点	
スポ：25点/32点	財務：11点/25点	
将来：7点/10点	CSR：10点/13点	

7906	ヨネックス	55点/100点
		安全重視の企業 ヨネックスはスポーツ用品の販売を行う企業である。スポーツに直接かかわる企業というだけあって、スポーツの得点はかなり高い。具体的にはゴルフ場を運営するなどして支援している。ただし、財務や将来性などの項目には0点のものも多く、企業の安全性、将来性には期待できない。また、不祥事は、子会社の横領などしかなかった。しかも、最近是不祥事などがない。よって、健全な会社であるという。
項目ごとの得点	人材：10点/20点	
スポ：26点/32点	財務：9点/25点	
将来：8点/10点	CSR：3点/13点	
8281	ゼビオホールディングス	52点/100点
		子供から大人まで幅の広い支援 スポーツ用品・用具・服の販売を行っている企業だ。まずスポーツだが、アイスホッケーチーム「東北フリーブレイズ」と契約を結んでいる。またアスリート雇用もしている。CSR活動の幅は広い。子供への社会貢献活動もしており、CSRは点数が低いものの多彩な支援をしているといえよう。多様な人材を雇用することには積極的とは言えない。インターネットなどで探したが不祥事の類は見当たらなかった。安定性は悪くないだろう。
項目ごとの得点	人材：6点/20点	
スポ：21点/32点	財務：13点/25点	
将来：7点/10点	CSR：5点/13点	
2730	エディオン	50点/100点
		多数のチームと契約、競技も多彩 エディオンは日本の家電量販店である。スポーツ支援をしているのは、ドラゴンズのオフィシャルパートナー契約、サンフレッチェ広島ユニフォームスポンサーなどの例が挙げられる。さらには女子陸上、アーチェリーなども支援の対象としており、大変興味深い企業である。CSRの項目が低いことから、ほかの社会貢献活動には消極的であるという見方もできるが、全体としてはバランスのとれた会社であるといえるのではないかな。
項目ごとの得点	人材：8点/20点	
スポ：19点/32点	財務：14点/25点	
将来：6点/10点	CSR：3点/13点	

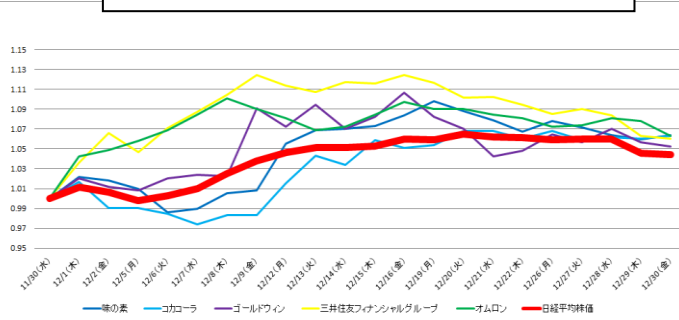
2802	味の素	48点/100点
		食育とスポーツの融合 スポーツ支援の例としては、ナショナルトレーニングセンター開設が挙げられるだろう。また Jリーグの試合の 1 つを「AJINOMOTO DAY」として協賛することもしている。さらにこの会社は JOC オフィシャルパートナーでもあり、オリンピックを応援している。ほかにも食品会社というだけあって食育活動も行っており、CSR活動の得点を稼いでいる。バランスは申し分ないので財務などに力を入れ、得点の底上げをすれば優良企業といえるのではないかと。
項目ごとの得点	人材：12 点/20 点	
スポ：15 点/32 点	財務：7 点/25 点	
将来：4 点/10 点	CSR：10 点/13 点	
2587	サントリー食品インターナショナル	47点/100点
		障害者アスリート育成に熱心 サントリーは、洋酒・ビール・清涼飲料水などの製造を行う会社だ。将来性では7割を得点している。スポーツ分野での点数は振るわないが、障害者アスリートを雇用しており、その選手が世界選手権で金メダルを獲得するなど、実績を上げている。ただ、表からはCSR活動にあまり積極的でないことが読み取れる。また、社員へのパワハラなどの不祥事もあった。財務についても点数が低く、安全性に疑問を感じる結果となった。
項目ごとの得点	人材：13 点/20 点	
スポ：15 点/32 点	財務：6 点/25 点	
将来：7 点/10 点	CSR：6 点/13 点	

【5－3】値動き

今回私たちが投資した19社の11月30日と12月30日の終値を比較すると、上昇した銘柄が16社となり、とても良い結果となった。特に味の素、コカコーラ、オムロンゴールドウイン、三井住友フィナンシャルグループは日経平均の伸び率を上回って上昇をした。

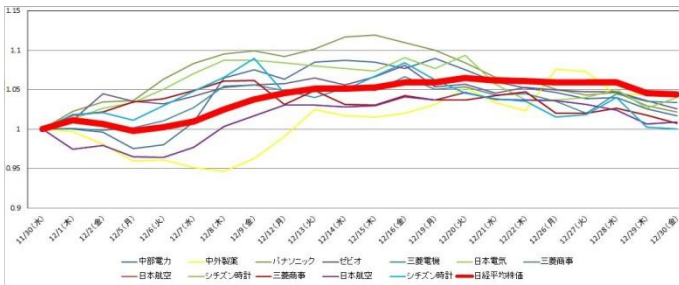
下落をしてしまった銘柄に関しても、下落幅が小さいので安定していると言えるだろう。

終値の推移（11月30日を1とした）



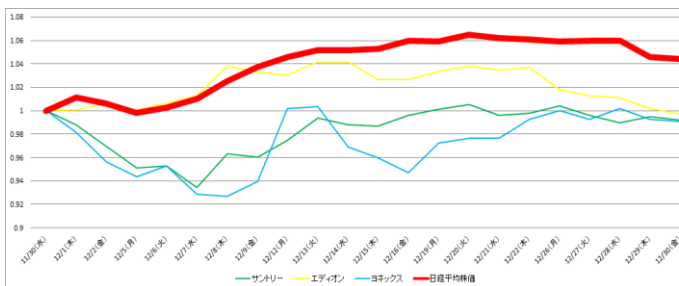
終値が上昇し、日経平均の伸び率を上回ったのは、5銘柄（味の素、コカ・コーラウエスト、オムロン、ゴールドウイン、三井住友フィナンシャルグループ）。

特に、コカ・コーラウエスト株は、コカ・コーライーストとの合併による競争力の高まりや、主力商品の綾鷹などのシェア拡大により値上がりをした。



日経平均の伸び率を下回ってはいるものの、終値が11月30日より上昇したのは、11銘柄。

日本電機株は、デンソーとの自動運転などの連携により順調に値上がりをしていていたが、エナジー事業の構造改革において成果が上がっていないことなどから、値下がりしてしまった。



日経平均の伸び率を下回り、終値も下落した3銘柄。

ヨネックス株は中国市場での販売が伸びたことやバトミントン用品の売り上げが好調だったことから、私たちが購入する前に上昇していた。利益を確定しようという動きから一時は下落したものの、最終的には持ち直し購入時の価格とほぼ同じになった。

最終的なポートフォリオの運用成績は、5,176,538円となった（1月6日の時点）。日経平均と同じ値動きで運用した場合の運用成績は5,312,839円なので、日経平均よりは下回ってしまったが、極端に離れているわけではなく運用成績はまずまずと言えるだろう。

今回19社中16社が上昇した要因については、アメリカのトランプ次期大統領の経済政策への期待などにより日経平均が上昇したことが考えられる。

ポートフォリオとしては、評価額の変動幅が非常に小さいため、良くも悪くも、非常に安定しているといえる。

6. 投資家へのアピール

我々のポートフォリオは、2020年に行われる東京オリンピックを見据えたものである。

- ・建設業
- ・製造業
- ・運輸業

など、オリンピックで株が値上がりする可能性が高い業界を多く選んでいる。

さらに、東京オリンピックにより、国民のスポーツ、健康への関心が高まることを予想し、

- ・食品業界（食育活動を行う）
- ・スポーツ用品製造業

などの企業もポートフォリオに入れて組んでいる。

また、採点を細分化し、多角的に企業を見つめている事も、魅力の一つといえよう。これは人材、財務、スポーツの項目を重視する一方、一方的な視点から不適切な評価を下してしまわぬよう、他の観点からの項目も追加し、細心の注意を払ったものとなっている。

	項目数
人材	7項目
スポーツ	13項目
財務	8項目
将来性	4項目
CSR	5項目

提言

マイナー競技の振興や強化の上で、競技をするための施設や強化のためのトレーニングセンターなど、いわゆる「箱もの」は確かに作らなければいけないだろう。しかしこれらの建設には多額の費用がかかり、維持するためにも莫大な費用がかかるため企業だけでやろうと思うと難しい。また、景気がよく企業の業績もよいからといって、箱ものを作るなど行き過ぎたスポーツ支援をしてしまうと、将来その企業の業績が悪化したときに企業の重荷となってしまう、継続した支援をすることができない。スポーツは、一朝一夕で結果が出るものではない。息の長い継続的な支援が必要であることを忘れてはならない。不安定な支援は、選手やその競技にとって逆にマイナスな結果をもたらしてしまうので、企業は計画的に支援を行う必要がある。

箱モノは、2020年の東京オリンピックに向け国が整備を進めていくと考えられる。おそらく、さまざまな世界トップクラスの会場ができるだろう。これらの施設を東京オリンピックに限らず、その後もどう使っていくかが問題になる。その価値を十分に活かせないと、せっかく整備された素晴らしい施設も負の遺産となってしまうだろう。そのようなことを避けるために、国内でマイナー競技の振興を進め、競技人口を増やすことが解決策の一つになるだろう。

そのために、企業がマイナー競技のアスリートを積極的に雇用することを提案したい。今回、私たちが注目したマイナー競技のアスリート雇用は、箱もの建設やメジャー競技のアスリート雇用などに比べるとコストを抑えられ、比較的規模の小さい会社でも参入することができる。多くの企業が参加できるということは、スポーツ支援の裾野を拡大させていく上で非常に大切だ。

さらに、企業は、雇用したアスリートを今よりもさらに積極的に活用していくべきだと思う。アスリートが現役を引退した後も引き続きアスリートに準ずる形で雇用を続け、マイナー競技が体験できるイベントの講師をしてもらったり、地域のスポーツクラブと連携してコーチとして派遣するなどの方法が考えられる。

こうした、選手を活用して草の根的なPRを地道に続けることで、企業はCMなどの既存の宣伝だけでは手に入れることができない、新たなブランドイメージを獲得できるであろう。アスリートにとっても、現役引退後のライフプランが描きやすくなるので、マイナー競技を続ける選手が増えることが期待される。

ここで、スポーツの持つ宣伝効果の事例を紹介したい。2015年のラグビーワールドカップで、日本は強豪の南アフリカに劇的勝利を収めた。この年のgoogle 検索ランキングを見てみると、1位には「Japan rugby」、2位には、この試合を示す「Japan VS SouthAfrica」というワードがランクインした。つまり、スポーツで成功を収めることができれば、国内のみにとどまらず、世界中の多くの人々に関心を持ってもらうことができる。そのような状況で、企業が雇用したアスリートが成功を収めたならどうだろう。それまで、その企業に関心を持たなかった多くの人が、その企業の名前を知ることになり、その企業のサービスや製品がより認知されることになる。直ちに売り上げにつながらなくとも、多くの人々の潜在意識の中に企業の名前が良いイメージと共に刻まれる。

知らないものよりも知っているものに人は親しみを覚える。将来、商品を購入しようとするときに、その企業の商品に親しみを覚え選択しようとするであろう。学生が就職先を選ぶ時なども、その企業に親しみを覚えて就職したいと思うようになるだろう。

また、企業のアスリート雇用によって日本のスポーツが強くなると、そのスポーツを通して「日本」ブランドも世界に広めることができる。すると世界の人々が日本企業の作ったものを選択するようになるのではないだろうか。

グローバル化が進む中、単に安くて良いものを作るだけでは、企業が世界で戦い続けることは難しい。今後は、「日本の好い（好きな）企業」から安くて良いものを買うことができたという満足感を世界中の多くの顧客から得られることが益々重要となり、これによってリピーター獲得や企業ブランド向上による時価総額増大などへと繋げていかなければならない。

したがって、マイナー競技のアスリート雇用を、支援から回収可能な投資へと変えていかなければならない時代的要請を受けているとも考えられる。

以上のような目的のために、マイナー競技のアスリートを積極的に雇用し、企業ブランドを高めていく投資としていくことを、提案したい。

7. 日経ストックリーグを通して学んだこと

【7-1】アンケートをしよう

我々は、スポーツについて更なる理解を深めるため、街頭アンケートを様々な場所で実施した。アンケートの形式としては、質問内容を印刷した紙を手渡し、その場で記入していただいた。質問の取り違えを可能な限り防ぐため、私たちが質問の意味を説明しながら答えていただく形式にした。以下に示すのが実際にアンケートに使った印刷用紙である（字数削減のため審査に影響が出ない範囲で削除・縮小した）。

アンケート

1、あなたはこのなかのどれがオリンピック種目であると思いますか？ オリンピック種目であると考える種目の横に、○をつけてください。

・ ホッケー	・ テニス
・ セーリング	・ バイアスロン
・ 馬術	・ アルペンスキー
・ 射撃	・ クロスカントリー
・ 近代五種	・ スピードスケート
・ トワイアスロン	・ アイスホッケー
・ テコンドー	・ ボブスレー
・ カヌー	・ スケルトン
・ ボート	・ リュージュ
・ 自転車	・ カーリング

2、この中で競技そのものを知らなかった種目に○をつけてください。

・ ホッケー	・ テニス
・ セーリング	・ バイアスロン
・ 馬術	・ アルペンスキー
・ 射撃	・ クロスカントリー
・ 近代五種	・ スピードスケート
・ トワイアスロン	・ アイスホッケー
・ テコンドー	・ ボブスレー
・ カヌー	・ スケルトン
・ ボート	・ リュージュ
・ 自転車	・ カーリング

3、先ほどのスポーツはオリンピックでメダル獲得数が少なかった競技です。これらの競技でメダルをとるためにどんなことが必要だと思いますか。あてはまるものに○を付けてください。

- 1 企業がさらにスポンサーになって、支援すべき
- 2 国が予算などを付けて積極的に支援すべき
- 3 学校などでこれらのスポーツの部活動をつくるべき
- 4 メディアへの露出を増やし、認知度を上げる
- 5 その他

アンケートにご協力いただき、ありがとうございました！！

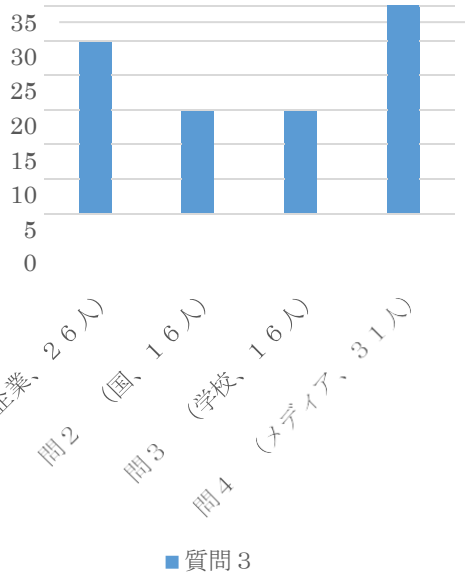
- アンケート内容 1. あなたはこの中のどれがオリンピック種目であると思いますか？オリンピック種目であると考える種目の横に、○を付けてください。
2. この中で競技そのものを知らなかったものに○をつけてください。
3. 上のスポーツはオリンピックでメダル獲得数が少なかった競技です。これらの種目でメダルを取るために必要なことは何だと思いますか。当てはまるものに○を付けてください。
- i. 企業がさらにスポンサーになって、支援すべき
 - ii. 国が予算などを付けて積極的に支援すべき
 - iii. 学校などでこれらのスポーツの部活動を作るべき
 - iv. メディアへの露出を増やし、認知度を上げる
 - v. その他（自由に回答）

アンケート内容 1. と 2. で示した種目は、実はすべてオリンピックの種目であるが、そのことは伝えずにアンケートに答えていただいた。

また、これらの質問を表面に印刷をすることで、アンケート内容 3. の内容が見えない様に工夫をした。アンケート内容 3. は、裏面に印刷したので 1, 2. に答えてもらったあとに、これらの競技が全てオリンピック種目であることをネタ晴らしして、その上で 3. に複数回答可で回答してもらった。

結果は、次のようになった。

質問 3



左は、アンケート内容 3. の集計結果のグラフだ。

国が支援するためには、多大な費用が掛かるが、日本にはそうした余裕がないため、選択肢 ii は当てはまらないと回答した人もいた。

このグラフを見ると、メディアの影響を評価している人が多いようだ。選択肢 iii と回答した人が少なかったのが意外だった。

また、企業についての選択肢 i と回答した人は、55 人中 26 人という予想よりも少ない結果となった。

しかし、これは企業によるマイナー競技の支援のことを知っている人が少ないからではないだろうか。今思えば、私もこの研究を始める前は、企業がマイナー競技を支援しているということを知らなかった。

企業がCMなどを使って、もっと積極的にアピールすれば、国民の理解も深まるのではないかと思う。

なお、アンケート内容 3. v. その他（自由に回答）で出された回答は、以下のとおりとなった。

“その競技をするための施設を造る”

“選手の給料をもっと増やす”

“NHKなどで特番企画”

“競技を身近に感じるイベントや体験会を開催”

アンケート調査をした場所

取材日時	取材場所	取材人数
2016/12/15	栄	3 人
2016/12/18	本校	40 人
2016/12/25	名古屋大学	10 人
班員の知り合いの人		2 人
合計人数		55 人

私たちは、本校の生徒 40 人をはじめ様々な場所でアンケートをした。計 55 人の方に回答していただいた。街頭調査では男女の偏りがないように気を付けた。

多くの方の意見が聞けて、このレポートにとって大変有意義な結果となった。

ストックリーグ感想

僕は今まで株というものにあまり興味がなかった。しかし日経ストックリーグを通じて株式について様々な魅力を学び、株式への興味がわいた。初めて日経ストックリーグに参加したので作業の要領が分からずとても大変だった。しかし自分なりに調べ、まとめることができた。社会は政府、企業、家庭が一体となっていることを改めて感じた。

杉山貴紀

今回のレポートは日本のメダルを増やしたいという思いから始まった。始めた当初は企業がどんな支援をしているか全くわからなかった。しかし学習を進めていくうちに多くの企業が多彩な支援をしていることに驚いた。日本のスポーツ界を陰から支える企業を応援したいと思った。

鬼頭直也

今回のストックリーグは素晴らしいレポートが完成したと思う。企業が社会貢献活動をしているということは初めて知った。また企業へのメールもした。大変だったが、充実したものになってよかった。

伊藤維胤

9. 参考文献

- 日経会社情報 2016 秋
- Yahoo!ファイナンス
<http://finance.yahoo.co.jp/>
- 各企業のホームページ
- 女性活躍に優れた上場企業を選定「なでしこ銘柄」(METI-経済産業省)
<http://www.meti.go.jp/policy/economy/jinzai/diversity/nadeshiko.html>
- スポーツ立国戦略 スポーツ立国戦略の目指す姿：文部科学省
http://www.mext.go.jp/a_menu/sports/rikkoku/detail/1297206.htm
- 「アスリート社員」とは? - 『日本の人事部』
<https://jinjibu.jp/keyword/det1/696/>
- アスリート社員の实態と企業が採用するメリット | キャリアパーク [転職]
<https://careerpark.jp/92395>